

WAGNER AKADEMIE TOKYO 2014

R. WAGNER

Der fliegende Holländer

Siegfried

Odilon Redon(1840-1916)
Brünnhilde

2014年 5月18日(日) 13:00

日暮里サニーホール

主催：ワーグナーアカデミー東京
日本橋オペラ
共催：株式会社マエストロ
ディーヴァ株式会社
協力：日本橋オペラ研究会
東京国際芸術協会

本日は、ワーグナーアカデミー東京2014のコンサートにお越し頂きありがとうございます。当会では、昨年の「トリスタンとイゾルデ」に続き、今年は「さまよえるオランダ人」第2幕&第3幕フィナーレと「ジークフリート」第3幕を演奏会形式で上演します。本来であれば、どちらかの演目を全曲舞台上演するのが理想とは思いますが、演出はない、フルオケでもない、カウフマンもティーレマンもいない、老舗オペラ団体の後援もない、いわばこれ以上削減出来ない条件の下、主催者としては、ワーグナーの音楽の一番大切なことをしっかりお伝えしつつ、かつみなさまにワーグナーの音楽を楽しんで頂けるように選曲をしました。

本日出演する方々は、オーケストラも含めそのほとんどが、2009年からワーグナーのオペラを中心に上演している「あらかわバイロイト」で共演した仲間です。もともと、初めて本格的にワーグナーを歌う方もいますので、ワーグナーをしっかりと勉強しましょうという意味も含めて、ワーグナーアカデミー東京というコンサート名にしました。コンサート形式とは言え、自分達で主催するとなると、練習会場の確保から始まり、印刷物や字幕の制作に至まで、多くの実務が必要です。練習会場については、本日、ゼンタとブリュンヒルデの二役を歌う(これが実は歴史的快挙!)福田祥子さんが主宰する日本橋オペラ研究会の協力を得て、恵まれた環境での稽古が可能になりました。これは不可能だ・・・と困難に直面したとき、それを乗り越える道が開けるのは、巨人ワーグナーに取り組んでいるご利益かと思えます。

さて、本日のプログラムを簡単にご紹介します。歌劇「さまよえるオランダ人」は、《神罰によって、この世と煉獄の間を彷徨い続けているオランダ人の幽霊船があり、喜望峰近海で目撃されるという伝説(フライング・ダッチマン)を元にした、ドイツの詩人ハインリッヒ・ハイネの『フォン・シュナーベレヴォプスキー氏の回想記』(1834年)にワーグナーが着想を得て再構成し、1842年に完成し、1843年に初演された。》とウイキペディアに掲載されています。私は1982年、当時留学していたザルツブルクで、カラヤンの指揮するベルリンフィルの「さまよえるオランダ人」を勉強させて頂きました。主役のオランダ人を歌ったヨセ・ファン・ダム存在感、ダーラント役のクルト・モルの包容力あるバスの歌声は印象に残っていますが、なにより圧倒されたのは、オケピットに入ったベルリンフィルの、これぞドイツ音楽という誇り高い演奏でした。もちろんそれを率いるカラヤンの神々しさは一生忘れない思い出です。練習の合間にベルリンフィルのメンバーと話したとき、自分たちは一年に一回オケピットに入る事を喜んでいる、そして永遠のライバルである、ウィーンフィルにオペラでも負けたくない気持ちもあるので、みな一層がんばると語ってくれました。確かにその気合いは舞台上に伝わり、舞台上のウィーン国立歌劇場の合唱団も、ベルリンに負けじと、おそらく普段のウィーンの舞台よりも気合いを入れて歌っていたはずです。

ワーグナーの代表作である楽劇『ニーベルングの指環』四部作は、『ラインの黄金』『ワルキューレ』『ジークフリート』『神々の黄昏』からなり、1876年に全曲がバイロイトで初演されています。なにしろ上演に、4夜合計約15時間を要する大作で、人類史上ほかに例を見ない巨大な作品です。中でも「ジークフリート」は特異な作品で、4時間ほどの長大なオペラの前半部分は、女声が全く登場しません。つまりかなり地味な、マニアックなオペラなのです。しかし第3幕、特にブリュンヒルデの登場する後半は、このオペラのみならず、指輪四部作全体の幸福の絶頂の場面です。特に興味深いことは、本日上演する第3幕の前に、実に12年間も作曲を中断していることです。この間「トリスタンとイゾルデ」と「ニュルンベルクのマイスタージンガー」という大傑作を作曲しています。またプライベートでも、ヴェーゼンドク夫人との熱愛や、リストの娘であったコジマとの実質的な結婚、そして破産状態であったワーグナーを奇跡的に救った、ルートヴィヒ2世の庇護を受けるなど、ドラマ以上にドラマチックな12年間を経て「ジークフリート」第3幕は作曲されました。私は最近でこそワーグナーを指揮していますが、正直に申しますと、それまで特にワーグナーに傾倒していたとか、好きだったということはありません。むしろ、難解なドイツ語と長大なワーグナーの音楽を敬遠していました。しかし、こうして『ニーベルングの指環』四部作を実際に指揮した感想は、いや、本当に面白いですよ! ワーグナーの「指輪」は、みなさんの人生をもっともっと楽しく、奥深くしてくれると思います。

来年の5月には、いよいよ演奏会形式ではない「トリスタンとイゾルデ」の舞台上演を予定しています。こちらの公演の方にもお出かけ頂ける事を、心よりお願い致します。



佐々木 修 / Osamu Sasaki / 指揮者

武蔵野音楽大学卒業。オーストリア政府奨学生としてザルツブルク・モーツァルト音楽大学指揮科に学び、カラヤン、チェリビダッケなどの巨匠に師事。同大学最優秀卒業、同大学オーケストラ常任指揮者をつとめる。1979年カラヤン国際指揮者コンクールに入賞。1982年ザルツブルク国際モーツァルト週間に、はじめての東洋人の指揮者としてデビュー「心から自然でしなやか、新鮮なモーツァルト指揮者」(オペラ・コンツェルト誌)と高い評価を受ける。この演奏により、国際モーツァルト財団よりパウムガルトナーメダルを授与される。帰国後、各地のオーケストラや合唱を指揮する一方、NHKや民放の音楽番組のパーソナリティー、制作者など幅広く活動。近年は、あらかわパイロイトで「ワルキューレ」「神々の黄昏」「ラインの黄金」と連続してワーグナーを指揮して注目されている。またプランナーとしては「ルナルナ★女性の医学」や「モバイル音楽辞典」の創設者でもあり、マルチなタレントで活躍している。(株)マエストロ代表取締役



高橋祐樹 / Yuuki Takahashi / オランダ人

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程オペラ科修了。第34回ドヴォルザーク国際声楽コンクール歌曲部門第1位、並びにドヴォルザーク大賞を受賞。「フィガロの結婚」の伯爵、フィガロ、「コシファン・トゥッテ」のグリエルモ、「愛の妙薬」のベルコーレ、「椿姫」のジェルモン、「蝶々夫人」のシャープレス、「神々の黄昏」のグンター、ベルク「ルル」のシェーン博士/切り裂きジャック等で出演。イタリアではレッツェのポリテアーマ・グレーコ歌劇場、プリンディシの新ヴェルディ歌劇にて「トスカ」のシャルローネ役でも出演している。またパッハの「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」やオルフ「カルミナブラーナ」のソリストとしても出演しているほか、ワルシャワのオペラ座のラジオホールにてカッシミの「イエフテ」のソリストとして出演、プラハでプラハフィルと共演している。日本声楽アカデミー会員。二期会会員。聖徳大学音楽学部兼任講師。



小田桐 貴樹 / Takaki Odagiri / ダーラント

昭和音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。昭和音大オペラ「愛の妙薬」のドゥルカマーラ役でデビュー。藤原歌劇団「泥棒かささぎ」エルネスト役「ランメルモールのルチア」ライモンド役、文化庁本物の舞台体験事業「魔笛」ザラストロ役などを始め国内の数々のプロダクションに出演。2009年下八川奨学金を得てフィレンツェに留学。ローマフェスティバル「ラ・ボエーム」にコッリーネ役で出演した。山田祥雄、捻金正雄、的場辰郎、折江忠道、Graziano Polidoriの各氏に師事。昭和音大非常勤講師、藤原歌劇団団員。



福田祥子 / Shoko Fukuda / ゼンタ / ブリュンヒルデ

大阪音楽大学ピアノ科卒業。大阪芸術大学大学院声楽専攻修了。第6回大阪国際音楽コンクール第2位。第1回東京国際声楽コンクール奨励賞。ジャンフランコ・パスティネ氏に師事。あらかわパイロイトで「ワルキューレ」「神々の黄昏」と、それぞれブリュンヒルデ役で出演。「圧倒的にして鮮烈な歌声と存在感。生まれながらのブリュンヒルデ」(音楽現代)と絶賛される。ヴェルディ・ワーグナーの生誕200年であった2013年には、「トリスタンとイゾルデ」のタイトルロールと「ドン・カルロ」のエリザベッタ役で出演、両役共に高い評価を得る。今年の8月には「椿姫」のヴィオレッタ役(新宿区民オペラ)に出演予定。2010年にリリースしたCD「イタリア・オペラアリア集」は、『日本にも真に世界にも通用する本格的なオペラ歌手誕生か』(音楽現代)と推薦を受ける。ウィーン、テルアビブ、東京等でリサイタルを開催。現在、ウィーン国立歌劇場とバイエルン国立歌劇場で研修を受けている。東京二期会オペラ研修所54期本科主席修了。優秀賞受賞。ウィーン在住。



伊東大智 / Daichi Ito / エリック

秋田県出身。新潟大学卒業、同大学院修了。'01年、池辺晋一郎作曲「てかがみ」(初演)のジョン・ターナー役でオペラデビュー、'12年の再演にも同役で出演、'14年の横浜みなとみらいホール、オペラシリーズではリチャード・マクベイン役で出演。他、「不思議の国のアリス」(木下牧子)「火の鳥」(青島広志)「魔笛」「カルメン」「カヴァレリア・ルスティカーナ」等多数のオペラに出演。また、青島広志演出ブルーアイランド版「魔笛」「メリー・ウィドー」「天国と地獄」等に出演。第37回、第39回新潟県音楽コンクール優秀賞受賞、同第47回最優秀賞受賞。第16回大曲新人音楽祭コンクール優秀賞受賞。及川音楽事務所第3回新人オーディション合格、最優秀新人賞受賞。ロータリー財団国際親善奨学生としてイタリアに短期留学。CD「夢二の歌」(Beltà)に参加。最近では俳優としても活動の場を広げている。



田辺いづみ / Izumi Tanabe / マリー

国際基督教大学人文科学科及び、国立音楽大学声楽学科卒業。同大学大学院オペラコース修了。「カルメン」「フィガロの結婚」「コジファン・トゥッテ」「ワルキューレ」「神々の黄昏」「アイダ」「アンドレア・シェニエ」「アドリアーナ・ルクヴルール」「ジャンニ・スキッキ」等のオペラのほか、リゲティ「ル・グラン・マカーブル」、カヴァッリ「ラ・カリスト」、プロコフィエフ「修道院での結婚」等の日本初演に主要キャストとして出演した。モロッコにて文化庁/日モロッコ国交樹立50周年記念・オペラ「虎月傳」に出演。文化庁/東京トロイカ合唱団・ロシア公演にてラフマニノフ「晩禱」のアルト・ソロを歌う。宗教曲ではヘンデル「メサイア」、メンデルスゾーン「エリヤ」、ドヴォルザーク「スターバト・マーテル」、デュリュフレ「レクイエム」等のアルト・ソロを務める。二期会会員。丸の内合唱団、混声合唱団ショコラ、K-mio Chor ヴォイストレーナー。



宮下あずみ / Azumi Miyashita / 村娘

国立音楽大学大学院イタリア歌曲コース修了。二期会研修所マスタークラス修了(優秀賞)。第四回東京国際声楽コンクール5位入賞。オペラにはTIAA特別公演「修道女アンジェリカ」ジェノヴィエツァ、両国シアターカイ「あえて、小さな魔笛」パミーナなどで出演。9月5日渋谷区文化会館大和田さくらホールにて行われる「二期会新進声楽家の夕べ」、11月7日白寿ホールモーニングコンサートDivaDivoに出演予定。二期会会員。



内海響子 / Kyoko Utsumi / 村娘

桐朋学園大学音楽学部演奏学科声楽専攻卒業。オルフ「カルミナ・ブラーナ」、ヘンデル「メサイヤ」ソプラノソロ。イタリア文化会館アニエッリホールでのコンサート、椿山荘、ホテルオークラでのニューイヤークンサート他、多数出演。逗子アートフェスティバルにて世界的なリート伴奏者ノーマン・シェトラ氏と共演。好評を博す。オペラでは「魔笛」夜の女王、ダーメ1、パパゲーナ、「ヘンゼルとグレーテル」露の精、等に出演。第2回・第3回生野ムジカ、ミラノ・スカラ座副指揮者ダンテ・マツォーラ氏マスタークラス参加。表彰・奨学金を獲得。横浜市新人オーディション最優秀賞受賞。横浜市緑区民音楽祭、宝塚ベガ新人演奏会出演。最優秀演奏賞受賞。声楽を木村俊光、田村麻子の各氏に師事。



日下麻彩 / Mahya Kusaka / 村娘

埼玉県出身。東京芸術大学音楽学部声楽科(メゾ・ソプラノ)卒業。ミュージカル女優に憧れ、中学生の頃よりボーカルやダンスのレッスンに励む。高校より声楽を始め、大学在学中には主に古楽やフランス歌曲を好んで学ぶ。ヴォーカルアンサンブルの活動にも力をいれ、当時在籍していたharmonia ensembleはフロリレンジュ国際合唱コンクールでグランプリ受賞。現在はミュージカルの勉強をしながら、様々な音楽ジャンルでコンサートやイベントに出演。主な舞台歴に「ラインの黄金」ヴェルグンデ、「魔笛」童子III、「東京メッツ」・「十戒・序章」など。ボーカルとピアノのユニットAZUL(アスール)やヴォーカルアンサンブルNaked Singersのメンバー。これまでに声楽を青木美稚子氏・竹村佳子氏、ミュージカル歌唱を鈴木結加里氏、ジャズダンスを宮崎真由美氏に師事。



飯島由利江 / Yurie Iijima / 村娘 / エルダ

東京芸術大学大学院声楽専攻独唱科修了。玉川大学文学部芸術学科フルート専攻卒業。二期会オペラ研修所第45期マスタークラス修了。イタリア・ミラノに留学。フィオレンツァ・コソット氏よりベルカント唱法を学ぶ。トルトーナ国立歌劇場、ヴェルチェッリ国立音楽院にて研鑽を積む。イタリア国内にて各地のサロン、教会コンサートに出演。オペラでは「アドリアーナ・ルクヴール」公爵夫人「カヴァレリア・ルスティカーナ」サントウツァ「仮面舞踏会」ウルリカ「修道女アンジェリカ」公爵夫人「外套」フルーゴラ等に出演。近年では「ヘンゼルとグレーテル」魔女「魔笛」侍女、童子、ワーグナー作曲の「ワルキューレ」ロスヴァイセ「神々の黄昏」ノルン等ドイツオペラに出演している。ベートーベン「第九」「ミサ・ソレムニス」ヘンデル「メサイア」モーツァルト「レクイエム」等の宗教曲のアルト・ソロを務める。日本歌曲や近代イタリア歌曲のコンサートにも多数出演し幅広いジャンルで高い評価を受けている。二期会会員。



池本和憲 / Kazunori Ikemoto / ジークフリート

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。日伊声楽コンクール入選後、藤原歌劇団、新国立劇場にて研鑽を積み、「蝶々夫人」のピンカートン役で新国立劇場にデビュー。その後同劇場「リゴレット」「トスカ」「イル・トロヴァトーレ」等で、世界的な歌手達と共演している。また、「キャンディード」総督役、「椿姫」アルフレード役、「ラ・ボエーム」ロドルフォ役、「トゥーランドット」カラフ役、「仮面舞踏会」リッカルド役、「カヴァレリア・ルスティカーナ」トゥリッドゥ等で出演。ベートーベン「第九」「メサイア」等、オーケストラとの共演も多い。さらに、埼玉オペラ協会会長を長く務める一方、TV出演、リサイタル、レコーディング、合唱指揮等、多彩な活動を行っている。CD「マザーテレサの祈り」をリリース。2012年には「神々の黄昏」ジークフリート役、2013年には「トリスタンとイゾルデ」のタイトルロールとして3つの異なるプロダクションで計5公演に出演、ヘルデンテノールとし高く評価されている。藤原歌劇団団員。



立花敏弘 / Toshihiro Tachibana / さすらい人 (ヴォータン)

国立音楽大学声楽学科卒業。'91年から'93年までミラノに留学。'97年1月熊本シティオペラ「運命の力」ドン・カルロ役で絶賛を博しオペラデビューを飾る。同年9月には「カルメン」モラレス役で藤原歌劇団本公演デビュー。新国立劇場には「椿姫」「カルメン」「ドン・カルロ」に出演。「トスカ」のスカルピア、「オテッロ」のイヤーゴ、「ナブッコ」「リゴレット」のタイトルロールで活躍。その他「魔笛」のパパゲーナ、「ジャンニ・スキッキ」「奥様女中」「スザンナの秘密」「電話」等で、抱腹絶倒の演技で客席を湧かせた。また、第九ソロやマーラー「さまよえる若人の歌」などのオーケストラとの共演も好評を得ている。一方ではスタジオの録音にも定評があり、ディズニー「ポカホンタス1」のスミス、「眠れる森の美女」の王子様の歌部分の吹き替え等がある。藤原歌劇団団員。玉川大学非常勤講師。

～あらすじ～（出典：モバイル音楽辞典） ※ 点線の部分は本日カットされます。

『さまよえるオランダ人』 時と場所：18世紀ノルウェーの海岸

第1幕

オランダ人の船長は神の怒りを買ったために、永久に死ぬことを許されず、海上をさまよわなければならないのだ。その呪いが解けるのは、女性の真実の愛を得たときだけ。七年に一回上陸が許されるが、彼のため生涯貞操を誓う女性と出会わなければ、再び海に帰らねばならない。激しい嵐の日、強風に流されてノルウェー船が岸に流れ着く。舵手が郷愁の歌を歌いつつ寝入ってしまうと、近くに黒いマストに血のような赤い帆のオランダ船が碇泊する。オランダ人はノルウェー船の船長ダーラントに、一人娘を妻にしてくれるならば、すべての財産を差し出すと言う。欲心に誘われたダーラントはこれに応じ、二隻の船は南風を受けダーラントの故郷に向かう。

第2幕

ダーラントの家で娘達が糸紡ぎをしている。ダーラントの娘ゼンタは部屋に掛けてあるオランダ人の肖像画を見つめながら、この不幸な男を救わずにはいられない気持ちになる。ゼンタは娘達から促され、乳母のマリーから習った「さまよえるオランダ人」のバラードを歌う。娘達が笑っても意に介さない。この時彼女を愛する猟師エリックが現れ、ダーラントの船が帰港したと伝える。恋人を待つ娘達は港へ急ぐ。エリックは昨夜見た夢のことをゼンタに話し、壁のオランダ人の肖像画は不吉だと警告する。しかしゼンタはその人を救うと言い出す。エリックは絶望して帰る。そこへダーラントがオランダ人を連れて来る。驚くゼンタ。黙って見つめ合う二人。父は娘に、この客はお前さえよければ、婿となる人だと言って席を外す。互いに深い想いを語る愛の二重唱。オランダ人はゼンタに呪われた運命を告げて求婚し、ゼンタはオランダ人に「永遠の貞節」を誓う。

第3幕

入江に、ダーラントのノルウェー船と見知らぬオランダ船が停泊している。ノルウェー船の水夫達が船上で飲めや歌えと大騒ぎをしていると、娘達が食べ物を持ってきた。彼らはオランダ船と一緒に飲もうと誘うが答えはない。そのうちにわかにかに雲行きが怪しくなり、嵐になるとオランダ船が点灯し、炎に照らされた船員が幽霊のように見え、歌声が聞こえる。ノルウェー船の水夫達も対抗して歌うが、オランダ船の船員の合唱に圧倒され、一同気味が悪くなり逃げ去る。

そこへゼンタと彼女を追ってエリックがやってくる。エリックはゼンタに、かつて自分に愛を誓ったときのことを思い出させようとする。それを物陰で聞いてしまったオランダ人は「これで終わりだ。救済は永遠に失われた」と絶望の声を上げる。そしてゼンタに、自分こそは人々の恐れる「さまよえるオランダ人」であることを告げ、船に駆け戻り出航する。追いつがるゼンタ。ゼンタは海岸の岩の上に登り、オランダ人に対し終生の貞節を誓い、海に身を投げる。同時にオランダ人の船も砕けて沈没する。やがて船の破片漂う海に、二人の浄化された魂が昇天していく。(幕)

『ジークフリート』第3幕 荒涼とした岩山

第1場：さすらい人（ヴォータン）が女神エールダの眠りを覚まし、神々の運命について尋ねる。エールダはヴォータンの身勝手を非難するが、ヴォータンはジークフリートへの期待を楽観的に語る。望んだ答えを与えてくれなかったエールダをヴォータンは再び大地の底へ下がらせ眠らせる。

第2場：そこへ森の小鳥に導かれたジークフリートがやってくるが、さすらい人の正体を知らないジークフリートはヴォータンを邪魔者扱いする。最初は余裕をもって接していたヴォータンも、ジークフリートの無礼な態度に不機嫌になってきて、自分がノートゥングを砕いたことを口にする。そのため、この老人が父の仇だと思い込んだジークフリートは、行く手をふさいだヴォータンの槍を一撃で叩き折ってしまう。ヴォータンは自分の力が衰えたことを悟りながらも、孫の力に満足して姿を消す。

第3場：ジークフリートが燃え盛る炎の中に飛び込み（場面転換の音楽）、炎を輪をくぐり抜けると、そこには盾におおわれ鎧を着た人間が横たわっていた。その鎧を外して、生れて初めて人間の女性の姿を見たジークフリートは「怖れ」というものを知って動揺する。気を落ち着かせて接吻すると、ブリュンヒルデは長い眠りから目を覚ます。彼女はジークフリートが自分を目覚めさせてくれたことを喜ぶが、神性を剥奪され無力な身になったことを思い出すと急に不安に襲われる。しかし、ジークフリートの天真爛漫な求愛に心を動かされ、ついに歓喜の声を上げて彼の腕の中に飛び込む。(幕) (C)吉田 真

《プログラム》

リヒャルト・ワーグナー 作曲・台本
Richard Wagner

演奏会形式・言語[ドイツ語]上演

歌劇『さまよえるオランダ人』 《第2幕 & 第3幕フィナーレ》 上演時間：約70分
Der fliegende Holländer (ACT II & ACT III Finale)

舞台祝典劇『ニーベルングの指環』第2夜『ジークフリート』《第3幕》 上演時間：約80分
Siegfried (ACT III)

『さまよえるオランダ人』〈配役〉

オランダ人	高橋祐樹
ダーラント	小田桐貴樹
ゼンタ	福田祥子
エリック	伊東大智
マリー	田辺いづみ
村娘	宮下あずみ
村娘	内海響子
村娘	日下麻彩
村娘	飯島由利江

指揮： 佐々木 修

1st ヴァイオリン： 三ツ木摩理
(コンサートマスター)

2nd ヴァイオリン： 上原千陽子
佐藤 茜

ヴィオラ： 岡崎晶子
力久峰子

チェロ： 中村紀代子
中田鉄平

コントラバス： 谷口宏樹
鈴木 智

ピアノ： 小滝翔平

語学監修： 升島唯博

『ジークフリート』〈配役〉

ジークフリート	池本和憲
ブリュンヒルデ	福田祥子
さすらい人	立花敏弘
エルダ	飯島由利江

稽古ピアノ： 鈴木架哉子
竹之内純子

予告：『トリスタンとイゾルデ』全曲舞台上演

2015年5月2日(土)日本橋劇場

指揮：佐々木 修 演出：館 亜梨沙

トリスタン：片寄純也 イゾルデ：福田祥子 ブランゲーネ：小林由佳

マルケ王：片山将司 クルヴェナル：勝村大城 若い水夫/船員：升島唯博

メーロト/船員：並木隆浩 旗手/船員：望月一平 船員：奥村泰憲